

**新聞を通じて社会の中で生きる自己を知り、
他者と共に生きる人間を育成する実践
～NIEを通じて、課題を読み取り、共有し、考察する姿勢の育成を図る～**

新潟県立久比岐高等学校

1 NIE 実践のねらい

本校では学習指導において、学校設定教科として「ステップアップ」を設定し「学び直し」による基礎学力の定着を図っている。また、県教委による「明日の新潟の飛躍につながる魅力ある学校づくり推進事業」～「魅力と活力ある学校づくり推進事業」の指定校として3年目であり、1年生より『学び合い』授業等の協働学習を実践し、教科指導場面を通じて生徒の「人間力」向上を目指している。生徒の実態をふまえ、昨年度のNIE実践のねらいを引き継ぎつつ、今年度の実践のねらいを次のように設定した。

- (1) 生徒がまず新聞に触れることによって、現在さまざまな場所で起こっている事象に対して、幅広い関心と深い興味を持つこと。
- (2) 実際に新聞を読んでみて生徒自ら興味関心を持った記事に対して、自分の言葉で意見や感想を記述できるようになること。また他者の意見や感想に対して、自分の意見を発信・記述できるようになること。
- (3) 記事の内容と意見・感想を生徒どうしで共有しながら、主体的に社会的課題を読み取り、考察する姿勢を身につけること。

(1)については、日頃から新聞を通してさまざまな情報に触れる機会が少ない生徒も多いことが予想されることから、新聞に関心がない生徒にも「読んでみたい」と関心を抱かせる工夫が必要である。また、生徒が日頃どのように新聞に接しているのかなど新聞に対する意識をアンケート形式で調査することとした。

(2)については、実際に新聞を手に取り、自ら関心を持つ記事を取りあげ、自らの意見を形成する活動場面が想定される。また、他の生徒が選んだ別の記事についても関心を持ち、他者の関心・意見を理解・尊重しようとする姿勢を育むことが求められる。

本校の教育目標にある「他者とともに生きる心豊かな人間性の育成」を踏まえ、自己の意見の形成、他者の意見への関心・理解、自分の言葉で表現し伝える力を持たせたいと考え本年度も実践のねらいに据えることとした。

(3)については、新聞とその記事を読み関心を持った意味や学びに関わる部分である。自分や他の生徒が関心を持った様々な記事や意見を互いに共有し、記事が伝える事象から社会やそこで生きる人間に関わる課題へと気づく「課題に気づく学び」を通して、社会を主体的に生きる人間力を形成することが目標である。

記事の内容と意見・感想を生徒どうしで共有する手立てとしては、本校で実践されている『学び合い』授業等の協働学習場面が想定される。

2 本年度の実践の概要

(1)「ニュースレポート」～休校期間中の課題～

4 月半ばからのコロナウイルス感染症拡大にともなう一斉休校期間中の公民科(政治経済)の課題の一つとして1年生に「ニュースレポート」を課した。これは新聞もしくはインターネットのニュース記事(プリントアウトしたもの)を読み、関心のあるニュースをとりあげて感想を記しレポートとしてまとめるものである。あえて新聞に限定しなかったのは各生徒世帯の新聞購読・購入等の実態が不明だったためであるが、提出されたレポートは8割ほどが新聞記事のスクラップで、約2割がインターネット等のニュース記事をプリントアウトしたものであった。記事内容は時期的にも新型コロナウイルス関連の記事が多数であり、コロナウイルス感染拡大とはあまり関連性がない地域のニュース等も散見された。自分の意見・感想等をしっかり記述している生徒が比較的多かったが、記事内容の理解の困難さをうかがわせ、苦戦努力している生徒も見られた(安易に記事を選ばず、自分の関心をもった記事と向き合っている姿勢は高く評価したい)。休校中、外出等を控える生活の中にあっても社会の動きに対する関心を持つことをねらいとした課題であったが、新聞活用学習に向けた助走となった。また、後に新聞とどのように接しているか実態をたずねる布石ともなった。

(2)新聞についてのアンケート

生徒が日頃どのように新聞に接しているのかなど新聞についての実態を把握するためアンケートを実施した。対象は公民科必修科目を履修している1・2年生(回答76名 7月 実施 無記名)である。以下アンケートの概要を記載する。

新聞についてのアンケート(学年:)

新聞を読んでいますか (複数解答可)

- ・自宅では定期購読している。ほぼ毎日読んでいる(目を通して)
- ・自宅で定期購読しているが、自分は普段から全く新聞を読まない。
- ・自宅で定期購読している→(自分は読まなくても)自分以外で、自宅で新聞をよく読んでいる人は? ()

その人と新聞記事ニュースが話題になりますか ・なる ・ならない

- ・自宅では定期購読をしていないが家族や自分が(コンビニなどで)購入した新聞を読むことがある。……(略)
- ・自宅で定期購読をしていないが新聞は毎日読みたいと思っている
- ・自宅で定期購読はしていない 新聞にはあまり興味がないので全く読まない
……(略)

新聞以外のメディアでニュース等に触れていますか(複数回答可)

……(略)

- ・ニュースが、家族や友人間の話題やコミュニケーションの種になることはありますか(複数回答可)

- ・全くない ・時々ある ・よくある
- ・家族で話題になる ・友人間で話題になる ……(略)

詳細な分析は省略するが、新聞を自宅で定期購読しているとの回答は約 65%ほどであり、自宅ではほぼ毎日新聞を読んでいる生徒は(全体の)約 7%ほどであった。自宅で新聞をよく読んでいる人については「親・祖父母」という回答が多数であった。新聞記事のニュース等が話題になるとの回答は(全体の)約 14%であった。新聞以外の媒体でニュースに触れている割合はほぼ全員で、インターネットよりもテレビで触れている割合が高かった。また、全体の約 80%で新聞以外の媒体で触れたニュース等が家族・友人間の話題に上がるという結果となった。

このような結果から、社会の動きやニュース等への関心は決して低くないこと、また、ニュースから得た情報が高い割合で話題に上がっていること、新聞については自宅で「親・祖父母」などの大人が読むことが多く、その大人からコミュニケーション・話題が発信される場面が多いという感触を得た。さらに、実践のねらい(2)(3)の目指す、記事から自己の意見を形成し他者の関心・意見を理解・尊重すること、それらを共有するなかで記事が伝える事象から社会やそこで生きる人間に関わる課題に気づく学びを深める素地があるという感触も得ることができた。

(3)「新聞に学ぶ」～新聞スクラップと意見形成・共有・課題発見～

新聞を定期購読していても日頃から新聞に触れない生徒の割合が高いことから、まず公民科(1～3年生)の授業導入時などにほぼ毎時新聞記事を提示して、社会的課題を意識させながら記事の内容を丁寧に説明することから始めた。また、特に1年生には副教材(資料集)や日本新聞協会の資料等を参考にしながら新聞の構造・情報量・記事の探し方や読み方(見出し→リード文→本文)を紹介することからスタートした。

7月中旬頃より生徒自ら新聞記事を選び、記事のスクラップ作業を始めた。「新聞に学ぶ」と題したスクラップ台紙を用意し記事のテーマ・感想・意見等を記述できるスペースを設け、記述するものとした。記事のテーマは毎回「コロナウイルス関連」「社説」「社会面」「地域の出来事」など1テーマを設定し、全員が同一時間に取り組み、提出することとした。



記事スクラップの例

スクラップ作業中においては、場合によっては記事の理解が難しくスクラップ作業がはかどらないこともあったが、教師への記事や用語についての質問が多数あり、生徒どうしで教え合う場面、他の生徒が選んだ記事に興味を示す姿も見られ、作業以上の学びの効果が期待できるものであった。

出来上がったスクラップには必要に応じて教師からのアドバイスやコメント、考察のヒント等を添えて返却し、自己や社会を取りまく課題に気づき考察する授業へと展開させた。

3 実践例

(1)授業者：井上 真人

(2)対象学年と生徒：普通科1学年 19名

(3)期日：令和3年2月22日(月)

(4)教科・科目：公民科・政治・経済

(5)授業の目標

- ・新聞に関心を持ち、記事の内容や社会的課題を読み取る力を育む。
- ・他の生徒と関心・理解・学びを共有する力を育む。
- ・グループの話し合いを通じて、学びを深め、課題解決のあり方について考察する姿勢を育む。

(6)授業展開(略案)

時間	授業の進め方	教師○・生徒●の活動	支援・留意点
導入 (5分)	・今までの活動をふりかえり授業の内容と目的を確認する。	○事前に授業で使うワークシートの拡大版を黒板に掲示 ○授業の内容と配付物の概説 ●資料② 記事紹介 記入 ●グループに分け、グループで話し合えるように机を向かい合わせる	スクラップから時間が経過しているので最近の記事・現状を紹介
展開1 (20分)	・級友が選んだ記事のまとめ ・コメント等を通じ、関心・理解を共有する。	○資料①およびワーク①の説明 ○スクラップ記事の配付 ●グループに配られたスクラップ記事の情報内容、気づいたこと、感想等を各自ワークシートにまとめる。	・机間巡視 質問受付
展開2 (20分)	・各グループで諸課題とその解決に向けた考察をまとめ発表する。	○ワーク②および資料③の説明 ●記事から各グループで関心の高い課題を共有し、解決に向けた方策や取り組みについて考察しまとめる。 ●グループごとに発表(代表) ○各グループ代表が発表した内容については適宜説明(質問)し、全体への理解を支援する。	・机間巡視 質問受付 ・活発に意見を交換させる ・誰が発表者になってもよいようにしっかりとシートを記入させる
まとめ (5分)	・授業の内容と目的をふりかえる。	○授業をふりかえり、「コロナ禍」の意味を考えさせる	

(7)評価の観点

- ①記事から伝わる情報、伝えている内容を読み取り、理解することができる。
(知識・理解)

- ②コロナ流行・コロナ禍によって見える社会の課題がある、という視点に気づき、記事に関心を持ち、主体的な課題意識を身につけている。(関心・意欲・態度)
- ③互いの意見を尊重しながら課題を解決するための適切な思考・判断を行い、共有すべき課題としてまとめることができる。(思考・判断・表現)

(8) 授業時配付資料・ワークシート(簡略版)

授業の目標

- ・新聞に関心を持ち、記事の内容・自分を取りまく社会的課題を読み取る力を身につけよう。
- ・互いの意見を尊重し、関心・理解・学びを共有する力を身につけよう。
- ・グループの話し合いを通じて、学びを深め、課題とその解決に向けて考察する姿勢を身につけよう。

資料① みんな(1学年)が選んだ新型コロナウイルス関連の記事

- ・日本小児科学会 20 才未満の新型コロナ症例 データベースに
 - ・コロナ世界感染 1000 万人 死者 49 万人 米ブラジル拡大
 - ・新規感染 60 カ国で最多 世界 1000 万人超す
 - ・政権支持率動かすコロナ対応 各国リーダーの姿
 - ・沖縄慰霊の日 コロナ 追悼式縮小
 - ・コロナ経済危機 連鎖 新興国の工場停止 日本も痛手
 - ・宣言解除 1 か月 東京感染高止まり 移動で近県拡大 警戒
 - ・ゲーム巣ごもり特需 13 年ぶり 販売 3 カ月連続増
 - ・コロナ後の教育未来図
 - ・都知事選 コロナ・五輪争点
- 店再開でも感染起きたら…店主「風評被害心配」 損保 補償保険及び腰
 ……(略 以下 1 年生全員の記事の見出し 新聞名を記載)

資料②最近の新型コロナウイルス関連 トピック ……(最近の朝刊記事より 略)

資料③ 社会に問いかけている課題を考える テーマ例

政治 選挙 人権 経済 財政 暮らし・家庭(少子高齢化 家族 介護) 感染予防
 医療 教育・学校 人と人とのかかわり デジタル化 産業・ビジネス 働き方
 都市の過「密」 地方の過疎 スポーツ・芸術活動 貿易 国際化 国際関係
 記事によっては他にも見えてくる……発想してください

ワーク① グループに配られた記事を読み、各自下記の表にまとめてみよう

……(他の生徒の記事・コメントをまとめ記述するワークシート 略)

ワーク②グループワーク

ワーク①をもとにグループで話し合い、グループで関心の高い記事の一つを選ぶ。



・そこにどんな課題が見えてくるのか……(記事から課題を読み取る力)

「社会でコロナが流行している」→「コロナ流行によって見えてくる社会・課題がある」

課題から見えるもの 逆に 今まで見えなかったこと

課題への対処や解決に向けて大切なこと に留意して
考察しグループで意見や感想を交換して、まとめてください

(教え合ってもわからないことがあれば質問してください)

グループで選んだ記事の概要	見出し+α
課題・テーマはズバリ	です
グループの意見 課題やその解決のために取り組まれていること 課題から見えるもの 逆に 今まで見えなかったこと 課題への対処や解決に向けて大切なこと	

(9) 研究協議会での指導

研究協議会は朝日新聞社新潟総局長 桑山 俊成 様の開会の言葉に始まり、他の研究協議参加者の諸先生方より指導・助言をいただき、意見交換が行われた。

授業の展開としては指導者の不手際から時間記事のまとめ等に時間がかかり時間が延長してしまったが、全体的な生徒の取り組みの姿勢、授業の雰囲気良好との評価をいただいた。これは NIE 活動を通して少しずつではあるが生徒の新聞記事への関心が高まってきた事、自分が選んだ記事や他の生徒が選んだ記事やコメントに向き合い、疑問を含めた意見や考えをまとめ発信しようとする姿勢が評価されたものと思われる。

このような展開を 1 回だけで終わらせず、繰り返し深めていくことが大切とのご意見、また新聞は意見の多様性を保証するメディアであり、意見の多様性を認めるところから生徒が思考・判断力を身につけていくことに NIE を実践する意義があるとの新潟 NIE 推進協議会会長 伊藤 充 様から貴重な助言をいただいた。

4 成果と課題

今年度の活動のねらいは、新聞記事を読み、意見を共有し、「課題に気づく学び」を目指すものであったが、一定の成果を目指すには相当数の時間が必要であった。

テーマは提示したが、基本的に記事を生徒が自由に選び作成したスクラップ、それを用いた展開は、記事を探し選ぶ時点よりその生徒なりの感性・主張が込められていることもあり、互いの記事や意見に関心をもったことが取り組む姿勢への刺激となった面もある。

時間が必要に対し不足していた面は否めないが、生徒の様子から、課題を探究しようとする姿勢を育むこと、自分がいま置かれている社会に自覚的に向き合い、より近づこうとする態度を育む点では一定の成果があったと考える。生徒によって活動の感想は様々であるが、以前より新聞を読むようになったという声が 1 年生から多く聞かれるようになった。2 年間 NIE 実践テーマとした、社会に幅広い関心を持ち、共生する「人間力」を持つ生徒の育成に向けて、これからも新聞を活用した生徒の学びを深めるあり方を探って行きたい。

(井上 真人)